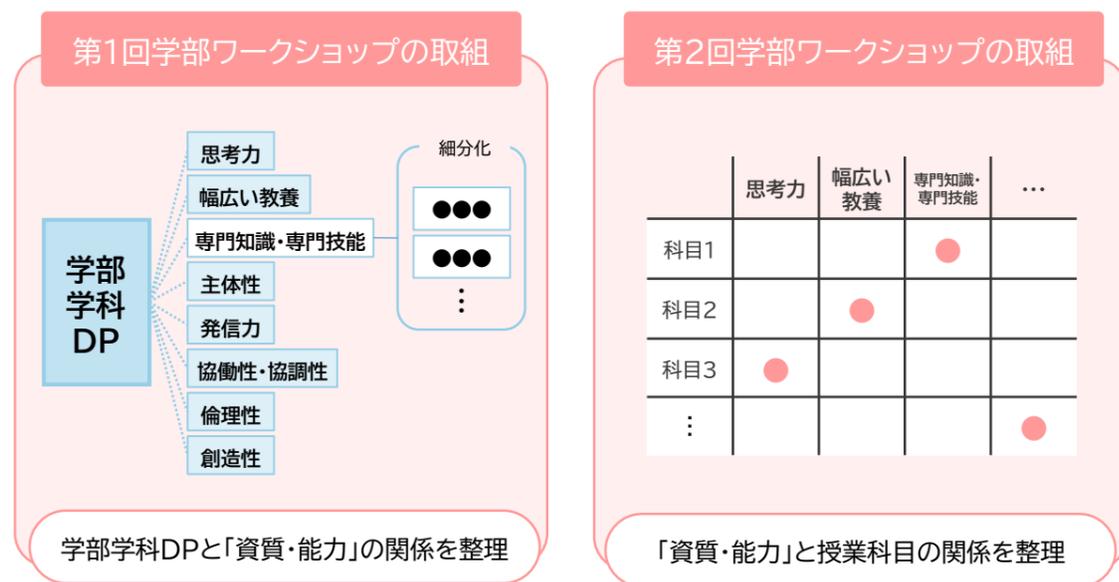
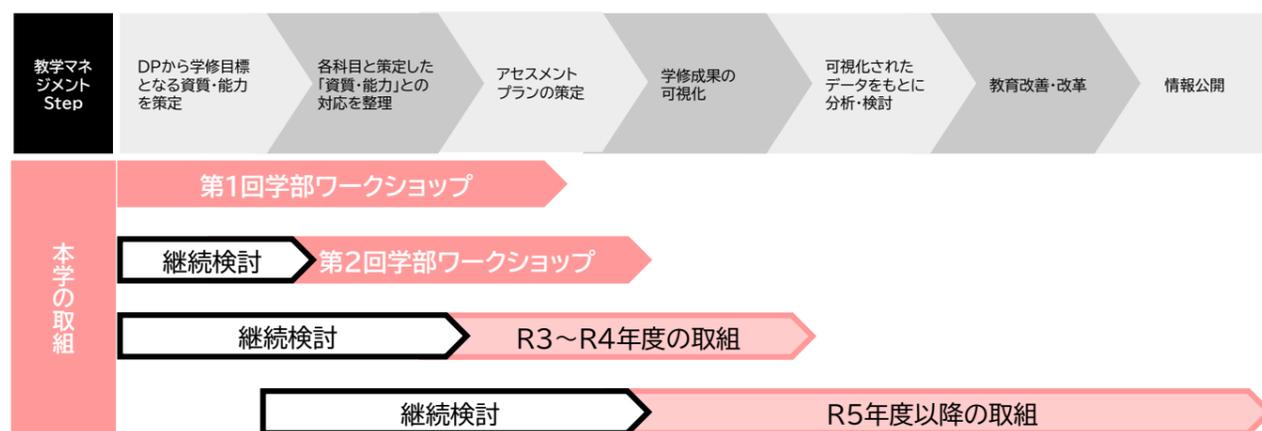


令和3年度は、全2回のワークを通じて各学部学科でカリキュラムマップ作成に取り組んでいただきました。第2回学部ワークショップでは、DPから具体化した「資質・能力」を各授業科目に関連づけるワークを実施し、カリキュラムの適切性について確認いただきました。「資質・能力」は令和5年度版シラバスや学修ポートフォリオに反映され、学生が「資質・能力」を基点に、自らの学修状況を検討しながら学修を進めることが可能となる予定です。



【図3】R3年度学部ワークショップ(全2回)の取組



【図4】R3年度学部ワークショップ(全2回)の位置づけ

## 学修者本位の教育の 実現に向けて

本学の教学マネジメントと令和3年度の取組

学長からのメッセージ

黒坂光 学長



「学生の成長を最大化」し、「学生が成長を実感できる」大学が、「選ばれる大学」であることは言うまでもありません。そのためには、大学は、供給者視点から、学生が「何ができるようになるのか」という学生視点の教育、すなわち、学修者本位の教育に転換していくことが必要です。あわせて、大学が自らの取組を点検・評価し、教育研究その他諸活動の質を保証していく内部質保証にしっかり取り組み、この情報を外部に公表し、社会から信頼を獲得していくことも求められます。

本学は、中長期事業計画「神山STYLE2030」において、「教育の京都産業大学の実現」の達成を最上位項目に掲げ、文部科学省補助事業「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」(Plus-DX)への採択も背景に、内部質保証の取組の強化を全学で進めています。令和3年度は、この一環として「教学マネジメント会議」を設置し、自己点検・評価の結果や教学IR情報を基に、教育の適切性の検証と改善を進める体制を強化しました。また、本学学生に修得を求める「8つの資質・能力」と、これに紐づくカリキュラムマップの策定、アセスメントプランの整備を全学で進めました。こういったカリキュラムマップやアセスメントプランは、教育の適切性を確認する「ツール」にすぎません。要点は、これらのツールや多角的なデータを用いて教育の課題や成果を明らかにし、教育をより良くしていくことにあります。このことを念頭に、すべての教職員が、建学の精神に掲げる「将来の社会を担って立つ人材の育成」に向けて、主体的に教育改善・改革に取り組まれることを強く期待します。

### Contents

- p2 p3 ディプロマ・ポリシー(DP)を「8つの資質・能力」として具体化
- p4 <FD/SD活動の推進>  
カリキュラムマップ作成に伴う第2回学部ワークショップ開催報告

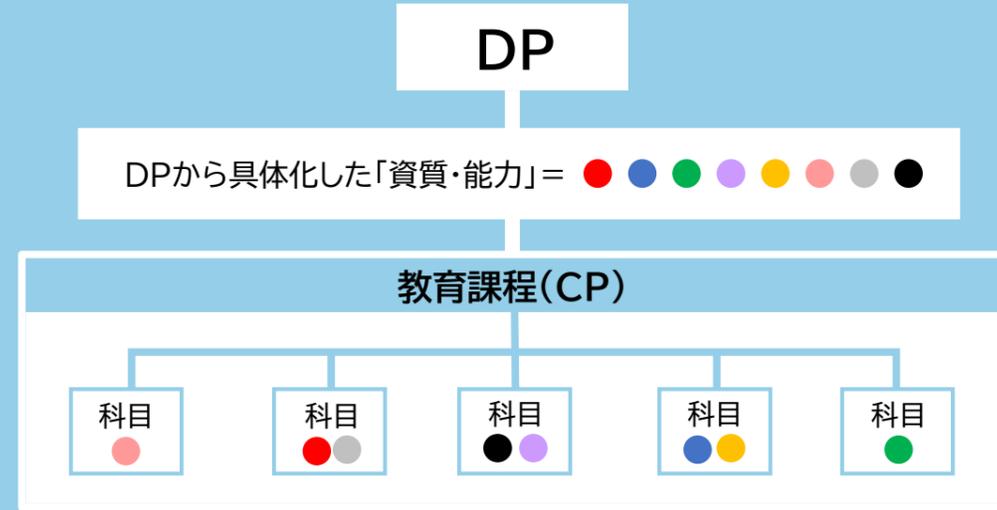
# ディプロマ・ポリシー (DP) を「8つの資質・能力」として具体化

本学では、学生自身が何を身に付け、何ができるようになったかが明確になり、学生が成長を実感できる「学修者本位の教育」の実現に向けて、取組を進めています。

学生の学修目標の具体化および卒業時に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、ディプロマ・ポリシー(DP)を具体的かつ明確に設定することは、教学マネジメントの重要な基盤のひとつです。

令和3年度は、DPを学生にとってわかりやすく測定可能な資質・能力に要素分解し、「8つの資質・能力」を定めました。

今後は、「学修者本位の教育」のための順次的・体系的な教育課程を編成し、特色ある教育を行っていく予定です。各授業科目における学生の「8つの資質・能力」の修得度(=学修成果)を成績評価等で測定し、学生が自ら学修ポートフォリオ等でふりかえることによって学びの状況を確認し、成長を実感することが可能となります。

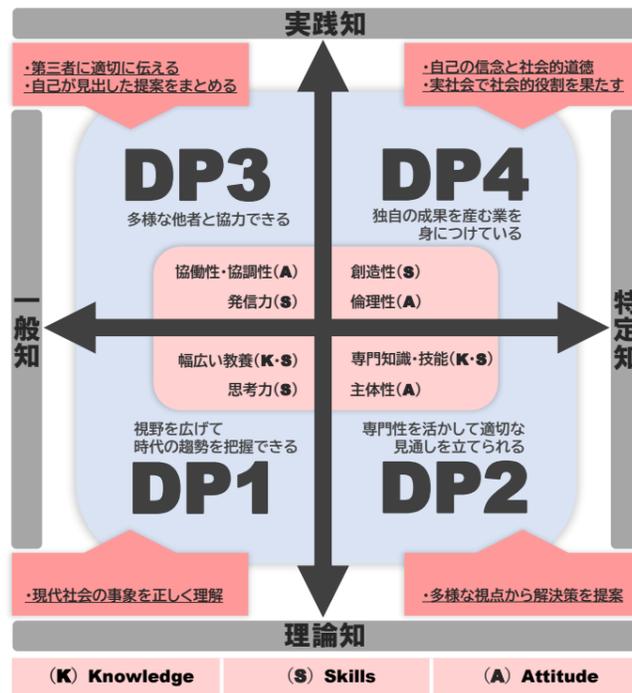


【図1】「資質・能力」に基づく教育課程の編成イメージ

## 全学DPからキーワードを抽出

	DP1	DP2	DP3	DP4
DP原文	現代社会で起きている事象において、それを正しく理解するための能力を有すること	修得した知識をもって、解決すべき課題に対して、多様な視点からアプローチし解決策を提案することができること	第三者に適切に伝えること、自己が見出した提案をまとめること	自己の信念をもち、社会的道徳観に基づいて、実社会で自らの社会的役割を果たす能力及び意志をもつこと

## キーワードを元に分析



## 全学共通の「8つの資質・能力」を定義

全学共通の「8つの資質・能力」			
	全学共通の「資質・能力」	定義	詳細
DP1	思考力	多面的、客観的、論理的に考える力	様々な情報を収集、比較、関連づけたり、独自の視点で統合したり、論理的に評価したり、正しく評価できているか検証したりすることができる。
	幅広い教養	特定の専門分野の枠を超えて共通に持つべき基礎知識や考え方	人文・社会・自然科学分野の諸科学の基礎知識や考え方を備えている。特に、グローバル化や科学技術の進展等の社会の変化に対応できる基礎知識や考え方を備えている。
DP2	専門知識・専門技能	特定の学問分野の理論、概念、方法等に関する知識や技能	特定の学問分野に根ざした、もしくは特化した、知識および技能によって、その分野の専門性を理解・判断することができる。
	主体性	自らの考えに基づいて行動する力	多様な視点から、自ら解決すべき課題を発見し、修得した知識・技能等を課題解決に活用したり、継続的に改善、更新することができる。
DP3	発信力	自らの考え、物事を第三者に適切に伝える力	第三者に口頭、文章、グラフィックス等、適切な表現方法を用いて自らの考え、物事を伝えることができる。
	協働性・協調性	他者と積極的に関わることができる力	多様な他者を受容し、議論の対立に対応したり、建設的な雰囲気醸成したり、特定の目的・目標のために共に行動したり、物事を分担するなど、他者と積極的に関わることができる。
DP4	倫理性	社会的役割を自覚し責任を持って行動する力	学問分野の社会的な意義、役割、影響力を認識した上で、個人の幸せやよりよい社会の実現のために責任を持って行動することができる。
	創造性	自らの信念を持って一定の成果を提示する力	修得した学問分野の知識・技能等を活かし、新たな知識や価値を生み出したり、問題解決の糸口を見つけたたり、解決することができる。

【図2】京都産業大学全学ディプロマ・ポリシー(DP)と「8つの資質・能力」の対応関係